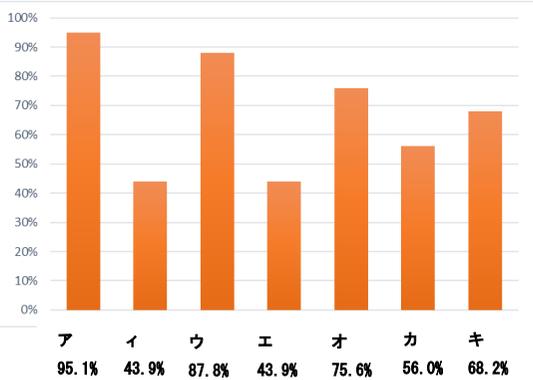
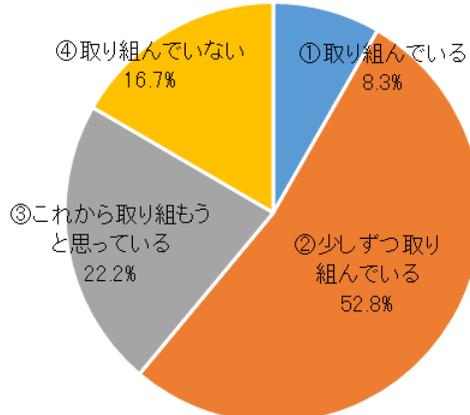


令和4年度 学校評価 最終評価報告

石川県立錦城特別支援学校 (No. 1)

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準【B以上で達成、C・Dは工夫改善】	最終集計結果	分析(成果と課題)	評価																																				
(1) 授業改善と専門性の向上	① <授業改善> 目標評価及び教科の見方・考え方の視点から授業改善を行う。各教科と各教科等を合わせた指導との関連を図る。	研究推進課 全学部	担当授業等で主体的・対話的で深い学びの視点から学習内容や指導方法の工夫改善に取り組んだ職員の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 達成度判断基準 7項目の質問に対し、4項目以上実施した職員の割合が80%以上	各教員が実施した項目数の割合 ①6～7項目実施 ②4～5項目実施 ③2～3項目実施 ④0～1項目実施 達成度の割合(%) <table border="1" data-bbox="1059 443 1525 632"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>①+②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>9.1</td> <td>72.7</td> <td>18.2</td> <td>0.0</td> <td>81.8</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>37.5</td> <td>62.5</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>33.3</td> <td>44.4</td> <td>16.7</td> <td>5.6</td> <td>77.7</td> </tr> <tr> <td>分訪</td> <td>0.0</td> <td>75.0</td> <td>25.0</td> <td>0.0</td> <td>75.0</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>24.4</td> <td>58.5</td> <td>14.6</td> <td>2.4</td> <td>82.9</td> </tr> </tbody> </table> 【結果】 B「①+②」=82.9% 項目毎の選択者数(%) 		①	②	③	④	①+②	小	9.1	72.7	18.2	0.0	81.8	中	37.5	62.5	0.0	0.0	100.0	高	33.3	44.4	16.7	5.6	77.7	分訪	0.0	75.0	25.0	0.0	75.0	全体	24.4	58.5	14.6	2.4	82.9	アンケートの結果、4項目以上実施した教員(①+②)の割合は、全体では82.9%となり達成判断基準の80%を超え、B評価となった。各学部の達成度では、小・中学部では80%を超え、高等部及び分教室・訪問教育部では77.7%、75.0%であったが、中間評価の60%程度に比べ上昇している。 項目別に見ると、項目アやウは80%を超え、学習指導要領に基づいた学習内容の設定や児童生徒が参加したいと思えるストーリーを意識して授業改善を行っていることがわかる。その他の項目の中で特にイ・エ・カが40～50%台となり次年度に向けての課題となった。このことから、児童生徒が教科の見方・考え方を働かせ、対話を通して学んでいけるような問いや手立てに焦点を当てた授業改善を進める必要がある。教科の見方・考え方を働かせる場を明確にすることで、学習評価の視点が定まり学習の成果を的確に捉えることにつながると考えられる。	B 達成
	①	②	③	④	①+②																																					
小	9.1	72.7	18.2	0.0	81.8																																					
中	37.5	62.5	0.0	0.0	100.0																																					
高	33.3	44.4	16.7	5.6	77.7																																					
分訪	0.0	75.0	25.0	0.0	75.0																																					
全体	24.4	58.5	14.6	2.4	82.9																																					
<p>【教員アンケート】(あてはまるもの全てに○をつける)</p> <p>ア:学習指導要領の目標や内容を基に児童生徒の実態に合わせた目標及び学習内容の工夫をした</p> <p>イ:「児童生徒にどのような力が身についたか」という学習の成果を的確にとらえるため、評価方法を工夫した</p> <p>ウ:児童生徒の興味関心に合わせ「参加したい」と思えるストーリー(文脈)が意識できるよう工夫した</p> <p>エ:自分と他者の意見や考え方を比較したり、考えを広げたり深めたりできるような学習場面について工夫した</p> <p>オ:単元の学びを生活や他の学習に関連付けて生活に活かせるように工夫した</p> <p>カ:教科の見方・考え方を働かせる又は育てる場を意識して、手立てや問いについて工夫した</p> <p>キ:主体的な学び、対話的な学び、深い学びをイメージしそれにつながるようICT機器の活用を工夫した</p>																																										

②	<p><専門性の向上> 児童生徒の特性や能力に応じ、確かな学びに繋がる授業を展開する。主な教育内容について明示する。</p>	教務課	<p>授業参観等で授業内容に満足している保護者や関係機関職員の割合 A：a+b=90%以上が5項目 B：a+b=90%以上が4項目 C：a+b=90%以上が3項目 D：a+b=90%以上が2項目以下</p> <p><u>達成度判断基準</u> 4項目でa+bの評価の割合が90%以上</p>	<p>参観者アンケート5項目を5段階評価（aとてもそう思う、bそう思う、cあまり思わない、d思わない、eわからない・未回答）の割合で算出</p> <p>達成度の割合(単位%)</p> <table border="1" data-bbox="1059 236 1547 421"> <thead> <tr> <th></th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> <th>e</th> <th>a+b</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア</td> <td>57.1</td> <td>41.1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1.8</td> <td>98.2</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td>51.8</td> <td>44.6</td> <td>1.8</td> <td>0</td> <td>1.8</td> <td>96.4</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td>50.0</td> <td>33.9</td> <td>1.8</td> <td>0</td> <td>14.3</td> <td>83.9</td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td>46.4</td> <td>48.2</td> <td>5.4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>94.6</td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td>44.6</td> <td>48.2</td> <td>7.2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>92.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果】B「a+b」=90%以上が4項目</p>		a	b	c	d	e	a+b	ア	57.1	41.1	0	0	1.8	98.2	イ	51.8	44.6	1.8	0	1.8	96.4	ウ	50.0	33.9	1.8	0	14.3	83.9	エ	46.4	48.2	5.4	0	0	94.6	オ	44.6	48.2	7.2	0	0	92.8	<p>後期は11月に学校公開、1月に授業参観でアンケートを実施した。前期同様指導内容のわかりやすさ、授業環境、児童生徒の主体的な学びについての4項目で「とてもそう思う」「そう思う」の回答が90%を超えた。参観者からは「一人一人の個性に合わせている」「子どもが楽しそう」「意欲や達成感、自信につながっていた」と支援に対して感想をいただいた。ウの教材については公開授業でICT機器を使用しない場合もあるためか「わからない」や未回答があり、次年度は項目の変更を検討する。</p>	B 達成
	a	b	c	d	e	a+b																																										
ア	57.1	41.1	0	0	1.8	98.2																																										
イ	51.8	44.6	1.8	0	1.8	96.4																																										
ウ	50.0	33.9	1.8	0	14.3	83.9																																										
エ	46.4	48.2	5.4	0	0	94.6																																										
オ	44.6	48.2	7.2	0	0	92.8																																										
<p>【保護者・関係者アンケート】（あてはまるもの全てに○をつける） ア:指導内容は児童生徒にとってわかりやすい イ:児童生徒が落ち着いて学習できる環境である ウ:使用されている教材（タブレット端末等のICT機器を含む）に工夫が見られる エ:児童生徒が主体的に活動していた オ:児童生徒が自分の気持ちや考えを表現していた</p>																																																
③	<p><ICTの活用> 児童生徒がICTを活用し主体的に取り組む授業を実践する。</p>	情報支援課	<p>児童生徒自身がICT機器を活用している割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p> <p><u>達成度判断基準</u> 週1回以上ICT機器を活用している児童生徒の割合が70%以上</p>	<p>児童生徒が授業でICT機器を活用している割合 ①週に4～5回使う 49.1% ②週に2～3回使う 39.6% ③週に1回使う 7.5% ④あまり（全く）使っていない 3.8%</p> <p>【結果】A「①+②+③」=96.2%</p>	<p>アンケート結果より、児童生徒が授業でICT機器を使用する場面が増えてきている。④あまり（全く）使っていない児童生徒は、前期（7.5%）に比べて3.7%減り、授業での活用が進んだ。④の内訳は、小学部で1人、在宅訪問教育部で1人となっており自身での操作が困難であること等が理由として挙げられていた。今後個に応じたより良い支援ができるよう、支援機器等の活用を進める必要がある。</p> <p>また、担当する授業での使用については82.5%の教員が「毎回」または「時々」使い、児童生徒は「主体的に取り組んでいる」「どちらかといえば主体的に取り組んでいる」と回答した。タブレット端末の活用によって児童生徒の主体的に取り組む授業の実践は概ね順調に進んでいると言える。</p>	A 達成																																										
<p>【教員アンケート】 （学級の児童生徒が授業でタブレット端末をどのくらい使用しているか） ①週に4～5回使う ②週に2～3回使う ③週に1回使う ④あまり（全く）使っていない</p>																																																
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・中間評価61.0%でD評価だったが、最終評価82.9%でB評価となり、先生方が工夫改善していることが分かった。 ・参観者アンケートの中に「使用されている教材（タブレット端末等のICT機器を含む）に工夫が見られる」という項目があるが、その時参観した授業でICT機器を使用していない場合、「わからない」または未回答となる割合が高くなったと考えられる。年間指導計画や本時の単元名や目標の掲示については、授業を見るポイントがわかりよかったので継続してほしい。 ・家庭におけるICT機器の活用状況について、把握しておくとのよいのではないかと。 																																													
<p>学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・社会に関かれた教育課程を目指し、アンケート結果等は授業改善に活かしていく。未回答が少なくなるように授業参観者アンケートの質問内容や項目を検討していく。 ・学校でのICT機器の活用は進んできているが、家庭での活用については児童生徒のニーズや必要性に応じて貸出体制を整えていく。 																																													

<p>(2) キャリア教育の推進</p>	<p>① <プログラムの活用> 錦城版キャリア教育プログラム(改訂版)を活用し自己選択や自己決定に関する実践や家庭との連携を図る。</p>	<p>進路支援課 各担任</p>	<p>キャリア教育の具体的な取組内容を意識し、家庭等でも取り組んでいる保護者の割合 A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満</p> <p>達成度判断基準 家庭で取り組んでいる保護者の割合が60%以上</p>	<p>具体的な内容の家庭での取組み</p>  <p>① 取り組んでいる 8.3% ② 少しずつ取り組んでいる 52.8% ③ これから取り組もうと思っている 22.2% ④ 取り組んでいない 16.7%</p> <p>【結果】 B「①+②」=61.1%</p>	<p>家庭での取組みを行っている割合は61.1%であり前期と比べ2.4%上がった。「少しずつ取り組んでいる」と答えた保護者が48.8%から52.8%に上がったことがその要因の一つであろう。取組み内容として、挨拶、家の食器の片付け、洗濯機のスタートボタン押し等の手伝いの回答があり身近なことで少しずつ役割を持たせて取り組んでいる様子が伺えた。その他、「集団参加のマナーや社会のきまりを伝え意識できるようにしている」「できることを少しずつ増やそうとしている」との回答もあった。</p> <p>今後も錦城版キャリア教育プログラムを基に、家庭と学校が共に子供の支援者として連携しながらキャリア発達を促していきたい。</p>	<p>B 達成</p>
<p>【保護者アンケート(全学部)】 (キャリア発達につながる具体的な内容の家庭での取組みについて)</p> <p>① 取り組んでいる ② 少しずつ取り組んでいる ③ これから取り組もうと思っている ④ 取り組んでいない</p>	<p>② <進路支援の充実> 保護者も交えた進路研修会を実施し、キャリア教育や進路支援の充実を図る。</p>		<p>進路支援研修会を通してキャリア教育や進路に関する意識の向上が見られる保護者・職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p> <p>達成度判断基準 【保護者】子どもの進路について考える機会になった保護者の割合が70%以上</p>	<p>【保護者アンケート】 ①71% ②29% ③④なし</p> <p>【結果】 A「①+②」=100%</p>	<p>高等部進路関係行事を参観した、または保護者進路研修会に参加した保護者の全員が、子どもの進路について考える機会となったと回答した。実習報告会を参観した保護者からは、保護者も質問をしたい等の意見があり取り入れていきたい。保護者進路研修会では、一人一人のペースでできることを大切にす前向きなアドバイスであり話を聞いてよかったという感想が多かった。今後も保護者のニーズに合わせた研修会の設定に努めたい。</p>	<p>A 達成</p>

達成度判断基準
【教員】 5項目の質問
 に対し4項目以上当て
 はまる教員の割合が70
 %以上

【教員アンケート】

進路研修会を通して（あてはまるものすべてに○をつける）

ア:キャリア教育の大切さを理解するとともに、自身の授業や児童生徒との関わり方等に生かそうと思った

イ:児童生徒のキャリア形成において、教師の対話的なかわりが大切であることを理解できた

ウ:児童生徒自身が自己のキャリア形成において、自身の活動や経験を振り返ることが大切であることを理解できた

エ:後期に、キャリア発達を意識した授業を行っている

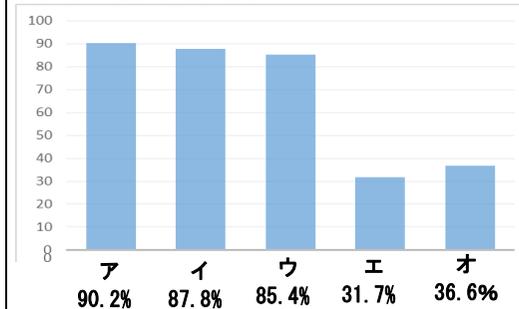
オ:児童生徒一人一人の錦城版キャリア教育学習プログラムでの取り組みとキャリアパスポートをつないで活用していこうと考えている。活用している。

【教員アンケート】
 達成度の割合 (%)

	① 5個	② 4個	③ 3個	④ 2個	⑤ 1個	①+②
小	0.0	45.5	36.3	18.2	0.0	45.5
中	12.5	37.5	50.0	0.0	0.0	50.0
高	22.2	27.8	38.9	0.0	11.1	50.0
分訪	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0
全体	12.2	31.7	41.5	7.3	7.3	43.9

【結果】 D 「①+②」=43.9%

項目毎の選択者数 (%)



教員へのアンケートでは中間評価より若干数値は上がったが、D評価となり、取り組みは十分ではないとの結果となった。中間評価でも低かった項目エは前期より割合は上がったが、今回も最も低い結果となった。授業改善の取り組みを行っている中で授業をキャリアの視点から考えることが十分にできなかったと考えられる。しかしながらキャリア教育の大切さを理解し、自身の授業等に生かそうと思っている教員は90%以上おり今後の取り組みが期待できる。授業をキャリア教育の視点から見直す場を研修会等で設定する他にキャリアパスポートの充実など児童生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身につけていけるよう引き続き推進していきたい。

D
未達成

学校関係者評価委員会の評価

- ・キャリア教育に学校と家庭が連携して取り組んでいることがわかった。高等部卒業後の進路の選択肢の幅に南加賀と県中央部とでは違いを感じる。進路先の選択肢が少ない中で、家庭、学校、関係機関が連携・協力していくことが大切だと思う。また、卒業後に関わる関係機関とも引き続き連携・協力していくとよい。
- ・保護者向けアンケートは、学校と連携・協力していく上で保護者の意識も高まるため、アンケートは継続した方がよい。

学校関係者評価委員会の評価
 結果を踏まえた今後の改善策

- ・錦城版キャリア教育学習プログラムを活用しながら、児童生徒のキャリア発達につながる取組を保護者と連携しながら今後も進めていく。
- ・保護者・職員向けの進路研修会やキャリアパスポートの充実を図っていく。

(3) 安心・安全な学校づくり

① <健康・安全・防災に関する教育活動の充実>
健康・安全・防災に関する授業や行事等において実践を行う。

指導課
保健課
各部

健康や感染症、食育等に対応した指導及び学校安全計画に即した指導を行っている職員の割合

A：100%
B：90%以上
C：80%以上
D：80%未満

達成度判断基準
5項目の質問に対して4項目以上実施した職員の割合が90%以上

各教員が実施した項目数の割合

① 5項目実施 ② 4項目実施
③ 3項目実施 ④ 2項目実施
⑤ 0～1項目実施

達成度の割合 (%)

	①	②	③	④	⑤	①+②
小	9.1	36.4	18.1	36.4	0	45.5
中	12.5	50.0	37.5	0	0	62.5
高	22.2	50.0	5.6	16.6	5.6	72.2
分訪	0	25.0	50.0	25.0	0	25.0
全体	14.6	43.9	19.5	19.5	2.5	58.5

アンケートの結果、4項目以上実施した教員は58.5%でD評価となり、中間評価と比べて、26.8%増加したが達成基準に満たなかった。

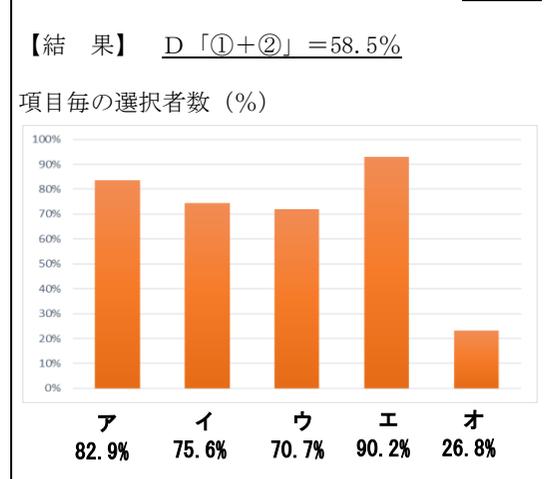
項目別にみると項目オの自由記述が最も低く約3/4の教員が記入していなかった。ア～エの項目を適切に行うことが健康・安全・防災に関する教育活動の充実につながると判断しているからであろう。項目イについては、設問の文面から道具の使用の際の個別の指導は含まれないと解釈したのではないか。項目ウも同様で、生活・交通・災害に関わる安全指導に、朝の会や休み時間等の話題として指導したことは含まないと解釈したのではないか。または、教員自身がこれらの事項をねらいとした授業を行っていないということから、自身の行動等を厳しく評価しているとも考えられる。

学校安全計画の内容の確認を、機会をとらえて繰り返し行うことで教員一人一人の危機管理意識をさらに高める必要がある。

D 未達成

【教員アンケート(指導課)】
(あてはまるもの全てに○をつける)

ア:避難訓練にあたり、安全な行動、避難について指導した
イ:学校安全計画に基づき、授業における安全な行動や道具の使い方について指導した
ウ:授業や機会をとらえて、生活・交通・災害(地震・水害)に関する安全指導をした
エ:学校生活において児童生徒の安全確保のために適切な行動をとった
オ:上記以外で各自が実施していることを一つ自由記述



達成度判断基準

5項目の質問に対して4項目以上実施した職員の割合が90%以上

各教員が実施した項目数の割合

① 5項目実施 ② 4項目実施
③ 3項目実施 ④ 2項目実施
⑤ 0～1項目実施

達成度の割合 (%)

	①	②	③	④	⑤	①+②
小	0.0	45.5	27.3	27.3	0.0	45.5
中	12.5	62.5	25.0	0.0	0.0	75.0
高	22.2	33.3	27.8	5.6	11.1	55.5
全体	13.5	43.3	27.0	10.8	5.4	56.8

アンケートの結果、「①+②」の全体の割合は、56.8%でD評価となり達成基準に達しなかった。学部別で見ると、小学部は45.5%、中学部は75.0%、高等部は55.5%であった。中間評価からは全体で15.3%向上した。中間結果を受け、各項目のイメージが共通理解できるように課で具体例を出し、全教員へ部会で周知した。食育全体計画を確認し、食に関する指導の目標および指導内容の理解を促したことも数値向上につながったと考えられる。

項目別に見ると、オは全体で27.0%と最も低い。食に関する指導の教科(授業者)が限定されやすい印象を、教職員が持ったことが要因の一つと推察される。その他、感染症対策による調理活動や校外での飲食を伴う学習の制限等、達成基準に達しなかった背景は様々あると考える。今後も、食育全体計画を共通理解しながら食育の推進に取り組んでいく。

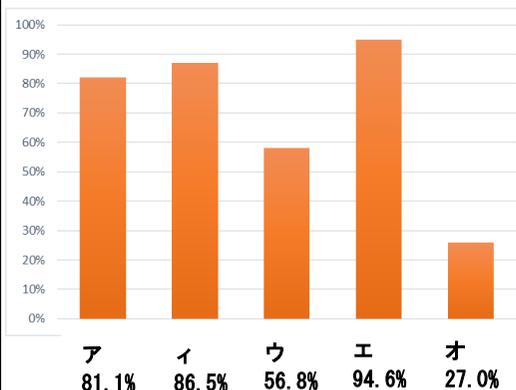
D 未達成

【教員アンケート(保健課)】
(あてはまるもの全てに○をつける)

ア:病気や感染症にかからないように食事や健康についての指導を行った
イ:食事場面において、安全、衛生面の指導または環境設定を行った
ウ:食べ物を大事にし、食物の生産等に関わる人々への感謝の気持ちを育てる指導を行った
エ:児童生徒が食事のマナーやきまりを理解し、行動できるような指導を行った
オ:食育全体計画を参考にして、教科等の授業において食に関する指導を行った

【結果】 D「①+②」=56.8%

項目毎の選択者数 (%)



② <危機管理意識の向上>
マニュアルやヒヤリハット等を参考に、日常の安全管理に留意した行動をとり事故防止や健康管理を行う。

指導課

マニュアルやヒヤリハット事故報告等を参考に日常の安全管理に留意した行動をとっている職員の割合

- A : 100%
- B : 90%以上
- C : 80%以上
- D : 80%未満

達成度判断基準

5項目の質問に対して4項目以上実施した職員の割合が90%以上

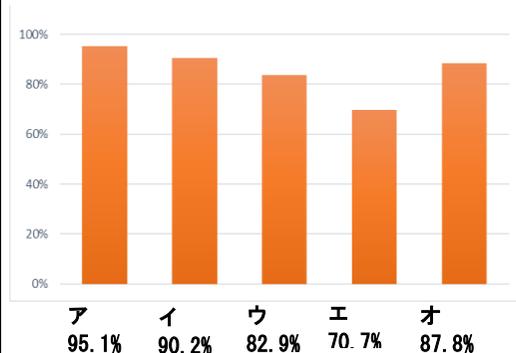
各教員が実施した項目数の割合
 ① 5項目実施 ② 4項目実施
 ③ 3項目実施 ④ 2項目実施
 ⑤ 1項目実施

達成度の割合(単位%)

	①	②	③	④	⑤	①+②
小	54.5	36.4	0	9.1	0	90.9
中	50.0	37.5	12.5	0	0	87.5
高	72.2	5.6	5.6	5.6	11.0	77.8
分訪	0	100	0	0	0	100
全体	56.1	29.2	4.9	4.9	4.9	85.3

【結果】 C 「①+②」=85.3%

項目毎の選択者数 (%)



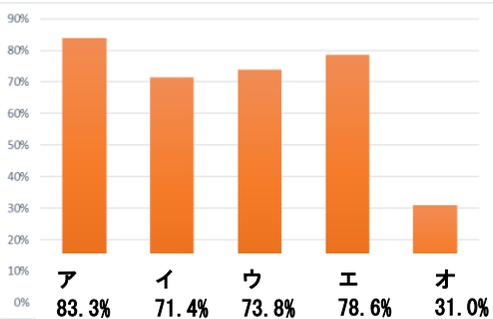
アンケートの結果、全体として85.3%でC評価となり、中間評価よりも4.8%上がったが達成基準には達しなかった。項目アイについては、それぞれ90%を超えているが、項目ウは約83%、項目エは約70%となっている。項目ウについては防火管理責任箇所の安全確認はしているが、担当箇所以外は行っていないということが推察される。項目エについては、危機管理マニュアルを全教員に年間2回閲覧したが、内容やその主旨の理解を得られるに至っていないと思われる。閲覧だけでなく各学部会等で指導課員が説明する場を設けていきたい。項目オについては、事故やヒヤリハット報告等を閲覧しているが、そこに書かれた事故防止対策について教員間で話題にしたり、自身に関わる児童生徒を想定して理解したりするには至っていないと考えられる。職員朝礼や各学部会で報告し、日常的な安全管理を進めていきたい。

C
未達成

【教員アンケート（指導課）】

(あてはまるもの全てに○をつける)

- ア:教室、廊下、手洗い場等の不要なゴミを処分し、環境整備を行った
- イ:事故やヒヤリハットが起きないように、特別教室や階段など、児童生徒が一人でいないか気を配った
- ウ:防火管理責任箇所や教室、特別教室等の安全確認を行った
- エ:危機管理マニュアル(個別のものを含む)を確認し、理解した
- オ:学校生活の中で、ヒヤッとしたことを他の教員と共通理解し、事故防止に努めた

<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①の項目が達成しなかったのは、達成度判断基準が高すぎたのではないか。質問項目や判断基準については見直していくとよい。 安全指導の一つとして、災害（地震・水害）のみに限定されているが、雪が降った時に雪道の安全な歩き方などを指導してもよい。 																																											
<p>学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練や安全指導については、今後、新型コロナウイルス感染症対策の緩和が予想されるので、積極的に取り組みやすくなると考えられる。 訓練時や授業での指導にこだわらず普段の生活の中で実践できる安全指導として、雪道の歩き方指導なども取り入れたい。 																																											
<p>(4) 業務の効率化の工夫</p>	<p>① <業務の効率化と環境改善> タブレット端末を活用し、会議等のペーパーレス化や短時間化、データ管理、情報共有等の業務の効率化と環境改善を図る。</p>	<p>教頭</p> <p>課会や部会、各種委員会、打合せ等でペーパーレス化や短時間化を工夫し、データ管理や情報共有を行っている職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p> <p>達成度判断基準 5項目の質問に対して4項目以上実施した職員の割合が70%以上</p> <p>各教員が実施した項目数の割合 ① 5項目実施 ② 4項目実施 ③ 3項目実施 ④ 2項目実施 ⑤ 1項目実施 ⑥ 実施していない</p> <p>達成度の割合 (%)</p> <table border="1" data-bbox="1057 475 1581 660"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> <th>⑥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>27.3</td> <td>18.2</td> <td>27.3</td> <td>18.2</td> <td>9.1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>11.1</td> <td>33.3</td> <td>44.4</td> <td>11.1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>33.3</td> <td>22.2</td> <td>16.7</td> <td>11.1</td> <td>16.7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>分訪</td> <td>25.0</td> <td>25.0</td> <td>0</td> <td>25.0</td> <td>25.0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>26.2</td> <td>23.8</td> <td>23.8</td> <td>14.3</td> <td>11.9</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果】 <u>D「①+②」=50.0%</u></p> <p>項目毎の選択者数 (%)</p>  <p>アンケートの結果、4項目以上実施した教員の割合は全体として50.0%でD評価となり達成基準に満たなかった。中間最終評価ともに達成基準に満たないという結果になった。 各項目別に見るとア、イ、エ、オの4項目で1.7%~8.0%の上昇が見られた。特にイが8.0%上昇し、ペーパーレス化が進んでいることがわかった。複数の項目を同時に実施することは難しいが自身ができることから効率化、環境改善に向けて一つ一つ意識して取り組んでいる教員が増えてきていると考えられる。オの「学部会や課会で業務の効率化、平準化につながる意見を提案した」教員が少なかった理由として、これらの会議では話し合う議件が多く業務の効率化、平準化につながる意見を述べたり聞いたりする時間を充分に取る事ができなかったのではないかと考えられる。 今回、自由記述で意見を求めたところ資料作成や会議での提案方法等の効率化について具体案が複数寄せられた。それらの意見を取り入れながら、次年度に向けて取組を検討していく。</p> <p>D 未達成</p>		①	②	③	④	⑤	⑥	小	27.3	18.2	27.3	18.2	9.1	0	中	11.1	33.3	44.4	11.1	0	0	高	33.3	22.2	16.7	11.1	16.7	0	分訪	25.0	25.0	0	25.0	25.0	0	全体	26.2	23.8	23.8	14.3	11.9	0
	①	②	③	④	⑤	⑥																																						
小	27.3	18.2	27.3	18.2	9.1	0																																						
中	11.1	33.3	44.4	11.1	0	0																																						
高	33.3	22.2	16.7	11.1	16.7	0																																						
分訪	25.0	25.0	0	25.0	25.0	0																																						
全体	26.2	23.8	23.8	14.3	11.9	0																																						
<p>【教員アンケート】（あてはまるもの全てに○をつける） ア:会議時間の短縮のため、教員への連絡はできるだけTeamsを活用した イ:会議や打合せなどでは、ペーパーレスを意識しタブレット端末を活用した ウ:作成した資料や教材を共有フォルダに保存したり、共有フォルダにある資料や教材を活用したりした エ:会議時間の短縮のため、要点をまとめて提案するよう意識した オ:学部会や課会で、業務の効率化、平準化につながる意見を提案した</p>																																												
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーレス化の実績として、学校の事務用品として購入している用紙の数量の推移を調べると客観的評価につながる。 担当している児童生徒の実態や、先生方個人のやり方の違いもあり、教材の共有については難しい面もあると思われるが、効率化を進めるためには継続して行っていくとよい。 																																											
<p>学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーレス化に伴う用紙の購入数の増減については事務部と情報共有しながら調べていき、ペーパーレス化の効果を確認する。 教材の共有については、サーバーの共有フォルダに教材を集約し、それぞれの授業内容に合わせて加工するなどし、効率的に活用する。 																																											